

〔新役員，理事からの声〕

## SPF 豚研究会の理事になって

下 山 安（株式会社 サンエスブリーディング）

All about SWINE 52, 41

このところ12月とは思えないほどの寒さとなり、朝起きるのも少々辛いかといったところ。しかしながらこの原稿がAASに掲載されるのは立春の頃でしょうか。「最近はずいぶん春の気配がしますね」といったような言葉が交わされていることでしょうか。多少のずれはありながらも季節は暦通りに動いているように感じます。近年、温暖化とか異常気象など言われて騒がれていますが、長い地球の歴史から見れば地球の温度は低下しているのです。大きな目で見れば我々が生きている今は地球が瞬きしている程度の一瞬にしかすぎないような気がします。

さて、この度、研究会の理事となりました(株)サンエスブリーディングの下山と申します。以前は某ハイブリッドメーカーに30年ほど勤め、2年ほど魚の陸上養殖の仕事をしておりました。縁あってまた養豚業界に戻ってまいりました。

養豚時代は様々な業務を経験させていただきました。そのなかでも私の畜産人生はAI（人工授精）とともにありました。入社2年目より育種改良の手法のひとつとして開始し、その後精液の外部販売、希釈剤の開発、AI用雄の販売、技術指導、ファームAI立ち上げなどに携わってきました。当時、国内におけるAIの普及率は低く、数%に達するかどうかという状況でしたが、今では希釈剤の開発、注入技術の簡素化が進み普及率は

60%以上にはなっているのではないのでしょうか。

今、AIは新たな技術革新を迎えようとしています。長年実用化が難しいとされてきた豚凍結精液の確立、新たな発想で開発された希釈剤による成績向上、雌雄産み分けなど、今までは「何となくそういうこと」として曖昧にされてきたことも科学的に解明されつつあります。また、照明をコントロールすることで授精回数を減らしても、受胎率や産子数を向上させるなどの技術も成果を上げているようです。30年前の脱脂粉乳を主成分とした希釈剤で2日間ほどしか保存できなかった頃からするとほんとうに驚きです。

入社して間もないころからAIを通して全国を飛び回り、多くの生産者の方々とお会いすることができたこと、新しい技術を自分で作りあげていく喜び、少しでも成績向上につながり感謝され喜ばれること、失敗しても頑張ることで克服できるという確信を得られるようになったことは、長年AI事業に携わってこられたことがあってこそ得られたものと思っております。私は獣医ではありませんので学術的な難しいことはわかりませんが、研究会を通して生産現場でお役に立てることを何かお伝えできればと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

2017年12月 「冬至 乃東生ず（なつかれくさしよず）」  
以上